

表紙作品解説

笹本理桜作「冬なのに真夏な」(F4号、日本画)・・・人文学科四年生の笹本さんが、三年生の絵画実習(日本画)で制作した作品である。ひときわ集中して粘り強く制作する学生さんで、印象深かった。画題は各自自由にしたが、今日どうしても写真などに頼る人が多い中、彼女はモティーフとする生花を教室に持参し、よく味わいながら丁寧な写生をするのである。その写生は、花びらの微妙なたち、葉や茎の線を丁寧に追い、花への愛情にあふれるもので、大変に感性の敏活な方だと感じたものである。

四年生になるとさらにいくつかの「美術実習」を履修され、色々話すようにもなった。聞いてみれば、中学校の時は学校に行きにくい時期もあったという。塾などにも通い高校進学、そして文学も美術も学べる跡見への進学を決めたという。実に成績優秀な勤勉な学生である。感性の敏活さゆえ、なかなか生きにくいこともある現代にありながら、心静かに、モティーフや画材、自身の「心」と対話をする「美術」には《心を解放する力》があると思わせてくれた。本人曰く、『跡見の美術は《心の居場所》なのだそうである。

(柴田真美)